

から。あいつはただの変人<sup>へんじん</sup>じゃないか。友達  
になりたければ、お前がなれよ」

ライアンの声が後ろから響いた。

「ねえ、ライアンが言ったことは聞かないで。

そうしないとセレナに付き纏<sup>つまと</sup>われるようになるから。あのタイプの人とは付き合わない方

がいいよ。もし、セレナみたいな人と仲良く

なるなら、二度と私達の所に来ないで！」

エリカの口調は段々強くなり、少女に反論<sup>はんろん</sup>する機会を少しも与えなかった。

「ちょっとそう思っただけ」

少女は巧<sup>たく</sup>みに返して、その場を立ち去った。